

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

①豊かな心をはぐくむ教育の推進		
1 一人一人の児童生徒の尊重 学校は、一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応ができていますか。	2 友達への思いやり 子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。	3 道徳・心の教育の充実 学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。(礼儀、生命尊重、思いやりなど)
【学校から】○年間指導計画に沿って人権・道徳・心の教育を実施し、日頃から豊かな心をはぐくむ教育を推進してきた。その結果、1「一人一人の児童生徒の尊重」2「友達への思いやり」3「道徳・心の教育の充実」のすべてについて、「4そう思う」「3どちらかといえば、そう思う」の割合が約90%である。一方、特に、「友達への思いやり」では児童の「4」が80%を少し下回り、保護者、児童に「2どちらかといえば、そう思わない」も数%あり、教師も「4そう思う」が10%程度であることから、真摯に受けとめ、さらに一人一人を大切にしたいきめ細やかな指導を推進していきたい。		

②確かな学力を育む教育の推進		
4 意欲的な学習態度 子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。	5 授業力向上 先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。	6 タブレット活用 子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。
【学校から】○コロナ禍の中で、「意欲的な学習態度」について児童の「4」がやや減少、「3」が増加で、合わせた割合が約9割と昨年とほぼ同じである。電子黒板の導入による資料の提示の工夫や、特に、児童用タブレットの活用が充実してきたことで調べ学習の充実や、まとめ、表現することが、思考力の高まりや、学習意欲につながってきていると感じる。今後さらなる研修で学力の充実を図りたいと考えている。○「授業力向上」においては保護者・児童とも「2」「1」があり、勉強が「わからない」「楽しくない」という子どもが存在するということを謙虚に受け止め、一人一人の子どもたちへ更に目を向けていきたい。		

③健やかな体を育む教育の推進		④いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実	
7 健康づくり 子どもは、好き嫌いをなく食事をし適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。	8 児童生徒理解 先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようとしていると思いますか。		
【学校から】○保護者・児童ともに「4」「3」の割合が8割以上である。全校で取り組んでいる「早寝・早起き・朝ごはん」運動を児童や保護者への啓発を図りながら、継続し進めていく。	【学校から】○「児童生徒理解」については、保護者・児童・教職員「4」「3」を合わせた割合が約9割である。「2」「1」の保護者。児童の気持ちを真摯に受けとめ、一人一人を大切にしたい相談体制に取り組んでいきたい。		

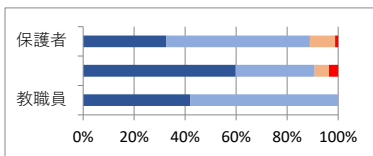
④いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実		⑤特別支援教育の推進	
9 いじめや問題への対応 学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。	10 学校の支援体制 学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。	11 共生社会を担う人材の育成 「交流及び共同学習」等の実施は、相互理解の促進につながっていると思いますか。	
【学校から】特に「いじめや問題への対応」に対して保護者の「2」「1」の割合は、昨年度とあまり変わらず約2割近くあり、現状を真摯に受け止めなければならない。さらに、保護者・生徒の思いをしっかり受け止めていじめや問題への対応をチームとして、組織的に取り組んでいく必要がある。特に、いじめが起きない仲間づくり、早期発見、早期対応に力を入れる。また、特別支援教育についても一人一人の児童・保護者のニーズに応じた対応や児童に寄り添った個別の支援を心掛けるとともに、保護者との連携を図りながら、連絡を密に取っていく必要がある。また、「交流及び共同学習」を交流学級での活動を中心にさらに充実させたい。			

①子どもたちの身近な安全対策の充実		②最適な学習環境の整備	
12 安全と事故防止 学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。	13 施設・設備の安全管理 学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。		
【学校から】○「安全と事故防止」について、「4」「3」の割合が9割以上で、集団下校時の地域の交通安全・防犯パトロールを中心とした取り組みで児童の安全が守られている。一方、班登校での下校時に、車で迎えに来られる保護者が増えており、少人数での下校となり、班での機能が弱くなる場面が見られる。	【学校から】○学校の施設・設備の管理については、定期的な安全点検をさらに充実させ、常に危機管理の意識を高めていきたい。桜の老木等の伐採・剪定など計画的に取り組んでいるところである。今年度は、防球ネットの取り換えが委員会から、また、保護者会による土砂補修など安全な管理を進めている。		

③家庭・地域社会との連携強化

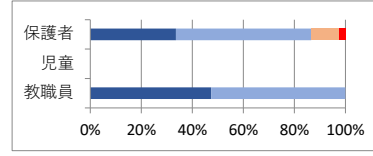
14 教育方針・目標の理解

学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者地域にわかりやすく示していると思いますか。



15 家庭や地域との連携協力

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。

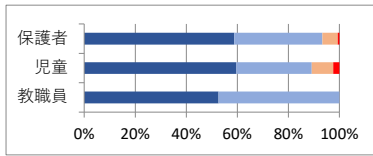


【学校から】○「教育方針・目標の理解」については、「4」、「3」を合わせた割合は約9割である。今年にはさらに学校教育目標「夢をはぐくみ、自ら学び、心身ともにすこやかに生きる児童の育成」を目指し、学校だよりやホームページを中心に保護者や地域へ、始業式や終業式、集会等で生徒へ、職員会議や職員朝会で教職員へ発信してきた。○「家庭や地域との連携協力」については、本校では健全育成ネットワーク会議といった地域連携の活動も多くあり、地域の活動に児童が参加する機会も多い。今年度も、コロナ禍で活動が停止せざるを得なかったが、交通安全教室や日々の交通指導など地域に支えられていることを改めて感じている。

④本校の教育

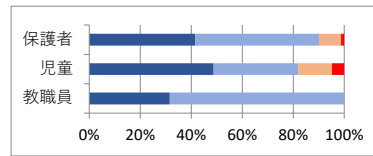
16 「早寝早起き朝ごはん」の取り組み

d 学校は、早寝早起き朝ごはんの取り組みを進めていると思いますか。



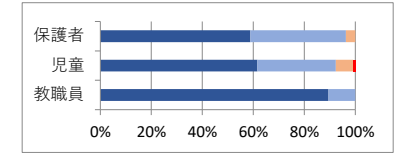
17 さわやかな挨拶の励行

d 学校は、さわやかな挨拶の取り組みを進めていると思いますか。



18 3緑や花がある学校

d 学校は、花や緑のある環境づくりに取り組んでいますか。



【学校から】○本校の教育目標の重点事項の中から、「早寝早起き朝ごはん」「挨拶の励行」「花や緑のある環境づくり」の3つの事項を全職員で組織的に取り組んできた。「早寝早起き朝ごはん」については、家庭との連携を図りながら早寝早起き週間を実施した。さらに、SNSやゲームの長時間使用による健康への悪影響など問題点も養護教諭や担任と協力しながら啓発を図っている。○「さわやかな挨拶の励行」については、「4」の割合が児童で約5割と、マスクで表情が見えにくいこともあるが、さわやかな挨拶まではもう少しである。さらに地域の方々へ心もった挨拶ができるよう育てていきたい。○「緑や花がある学校」については、今年度、「熊本市学校環境緑化コンクール」で北区賞を受賞した。日々のボランティア活動や、緑化主任を中心に種から育てる花づくりに全学級で取り組んできた「お花屋さん」などの活動を通して、児童の緑化への意識は約9割と高い。また、カタルパ再生プロジェクト、通称「カタプロ」の活動が評価されての受賞である。例年、学校支援ボランティアの方との連携を行っているが、来年度はぜひ実施したい。学級園づくりは、児童にとって潤いのある環境づくりにつながっている。

来年度の具体的な取り組みについて

- 今年度の学校教育目標「夢をはぐくみ、自ら学び、心身ともにすこやかに生きる児童の育成」のさらなる充実を目指し、地域、学校、家庭が一体となって児童の育成に取り組む。コロナ禍の難しい状況ではあるが、一層工夫をして、学校だよりや、ホームページ等をさらに活用したり、授業や発表会を積極的に公開していき、地域に開かれた学校づくりをめざしたい。
- 「授業がよくわかる」の割合が減少している。校内での授業研究会を軸にICTの活用や「めあての設定」「対話的活動」「振り返り」を全職員で実践してきたが、その成果が十分表れているとは言えない。学習の定着も含め、来年度は、より一層、教材研究の充実、タブレットの活用、協働的学びの推進等で、児童が学びとる学習者主体の授業へと転換を図り、家庭での学習の定着をさせながら、個に応じた学習のさらなる徹底を図っていく。
- 登下校時または下校時の様子や安全面において、あいさつの声や登下校時の道路の歩き方、公園での遊び方等、課題があった。学校でも再度指導を徹底し、防犯協会や交通安全協議会等の諸団体と今後もさらに協力して地域と一体となり進めていく。
- 新型コロナウイルス感染症防止に対応するために、手洗い・マスク着用など基本的な生活習慣の確立を図る。また、心身共に健康な生活を送れるように、一人一人の思いに寄り添い、教育相談等の充実にも努めたい。
- 全国学力学習状況調査・熊本市学力検査を受けて、より児童の学力を分析し、きめ細かな指導の工夫改善に努めたい。
- 長年取り組んできたボランティアの取り組みが評価を受けたが、今後も引き続き「豊かな心を育む教育」の充実のために、花作りを中心とした緑化活動や日常的なボランティア活動を推進し、自ら進んで行動する良さを今後も伸ばし、お互いの良さを認め合える人間関係づくりに取り組む。

学校関係者評価

- 主体性のある学習について、学校では見えない地域での姿も知ってほしい。特に、地域の寺子屋では、目的をもって勉強に取り組んでいる児童も多い。現在の取り組みをさらに発展させて、児童に目的意識を持たせて学習に取り組ませて欲しい。授業を参観してみても、授業スタイルの変化や、タブレットの有効性を改めて感じた。特に、児童が、資料を使って、考えをまとめるアウトプットの力を感じた。さらにICTの校内研修には積極的に取り組んで欲しい。ICTの良さを生かすためにも、板書計画や発問力など教材研究をさらにしっかり行い、児童の学力向上につなげたい。
- 学校緑化美化コンクールの北区賞について、今まで積み重ねてきたボランティア活動を中心とした取り組みが成果をあげていると感じる。ボランティア委員会の苗づくりと本校のシンボルツリーのカタルパを大切に活動をぜひ、継続して欲しい。
- 班での登下校の様子は、きちんと並んで、挨拶も良いという評価をいただいた。これは地域の交通指導員の皆さんの支援のおかげであることを再認識することもあった。今後も地域の皆様への感謝の気持ちを持ち続ける続けることとともに、引き続き安全指導を続けていきたい。